

2021年

子どもゆめ基金 ガイド

子どもゆめ基金の
申請をお考えの方へ



採択情報
満載!!

● こんな使い方がある!!
助成活動事例を紹介

How To
● 子どもゆめ基金
申請までの流れ

子どもの体験活動・読書活動への助成を行っています。

 National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

 SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



子どもゆめ基金は、令和3年で創設20年を迎えました!

目次

「子どもゆめ基金」について ……第2表紙

「子どもゆめ基金」の概要 …… 1

子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ
 -申請までの流れ- …… 3

子どもゆめ基金ガイドの活用方法
 -申請のワンポイントアドバイス- …… 4

子どもゆめ基金助成活動情報サイトのご紹介 …… 5

持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に向けた活動を
 支援しています …… 6

令和2年度助成活動事例

○子供の体験活動

【自然体験】
 自然体験の中で環境を考えよう！今、私たちにできること
 実施団体／特定非営利活動法人 きのくに子ども NPO …… 8

防災・減災キャンプ ～災害時に君は生き延びれるか？～ 福岡編
 実施団体／一般社団法人 72時間サバイバル教育協会 …… 10

【科学体験】
 松江 雲南・奥出雲わくわくサイエンスクラブ
 実施団体／島根わくわくサイエンス研究会 …… 12

【交流体験】
 みんなで楽しく交流しよう！
 実施団体／社会福祉法人 羊ヶ丘養護園 …… 14

青森市 「あそびの城」
 実施団体／青森市レクリエーション協会 …… 16

【社会奉仕】
 むささびっ子の森開拓団
 実施団体／NPO チームばんどり …… 18

【職場体験】
 キッズドリームワーク in プラザ
 実施団体／特定非営利活動法人 芸術文化振興市民ネット新庄 …… 20

【その他の体験】
 こどものけんちくがっこう
 実施団体／特定非営利活動法人 こどものけんちくがっこう …… 22

○子供の読書活動

【読書活動】
 見て、触れて、感じて、深まる絵本の世界
 実施団体／びえい・ふらのこどもの本ネットワーク …… 24

KIDSのなんでも相談会！ …… 26

普及啓発事業の事例

日中韓子ども童話交流事業 …… 28

ミクロネシア諸島自然体験交流事業 …… 29

「体験の風をおこそう」運動とは …… 30

申請・採択状況 …… 32

子どもゆめ基金へのご協力を
 「子どもゆめ基金」へご寄附いただいた皆様 …… 裏表紙

「子どもゆめ基金」について

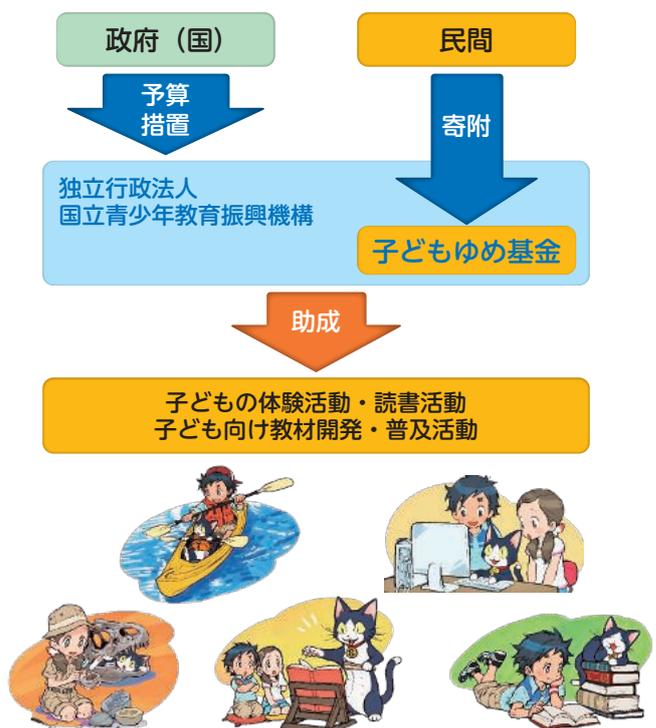
「子どもゆめ基金」は、衆議院・参議院の超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子供の未来のために有意義な基金の創設を発意し、平成13年4月に創設されたものです。

かつての子供たちは、自然の中や地域において様々な自然体験・社会体験を日常的に積み重ねて成長する機会に恵まれていました。しかしながら、今の子供たちをめぐる環境は、心や体を鍛えるための負荷がかからない「無重力状態」であるとともに、保護者の経済力や保護者自身の経験の多寡、学校の判断によって、体験活動の機会に「体験格差」が生じているとの指摘もあります。(平成25年度中教審答申より)

体験活動に関する調査(国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」)では、「子供の頃の体験活動が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多い」、「体験を多く行っている青少年ほど、他者への思いやりや積極性などの自立的行動習慣が身につけており、自己肯定感も高い傾向にある」など、子供の頃の体験は、その後の人生に影響することが示唆される結果が出ています。

体験活動・読書活動の推進に向けた様々な取り組みが求められている中、子どもゆめ基金は、未来を

担う夢をもった子供の健全育成を推進するため、地域の草の根団体等が実施する様々な体験活動や、特色ある新たな取り組み、体験活動・読書活動の振興を図る取り組みの裾野を広げる様な活動を中心に、支援を行っています。



「子どもゆめ基金」の概要

●助成金の交付

●助成の対象となる活動

子供を対象とする体験活動や読書活動

子供の体験活動

- ・キャンプや自然観察などの自然体験活動
- ・科学実験教室などの科学体験活動
- ・異年齢や異世代、地域間等の交流を目的とした活動
- ・清掃活動等の社会奉仕体験活動
- ・地域の商店街・農業・漁業等の職場体験活動

子供の読書活動

- ・読み聞かせ会、読書会活動

子供を対象とする体験活動や読書活動を支援する活動

- ・フォーラムの開催、指導者養成

子供向け教材開発・普及活動

- ・インターネット等で使用可能なデジタル教材を開発し普及する活動

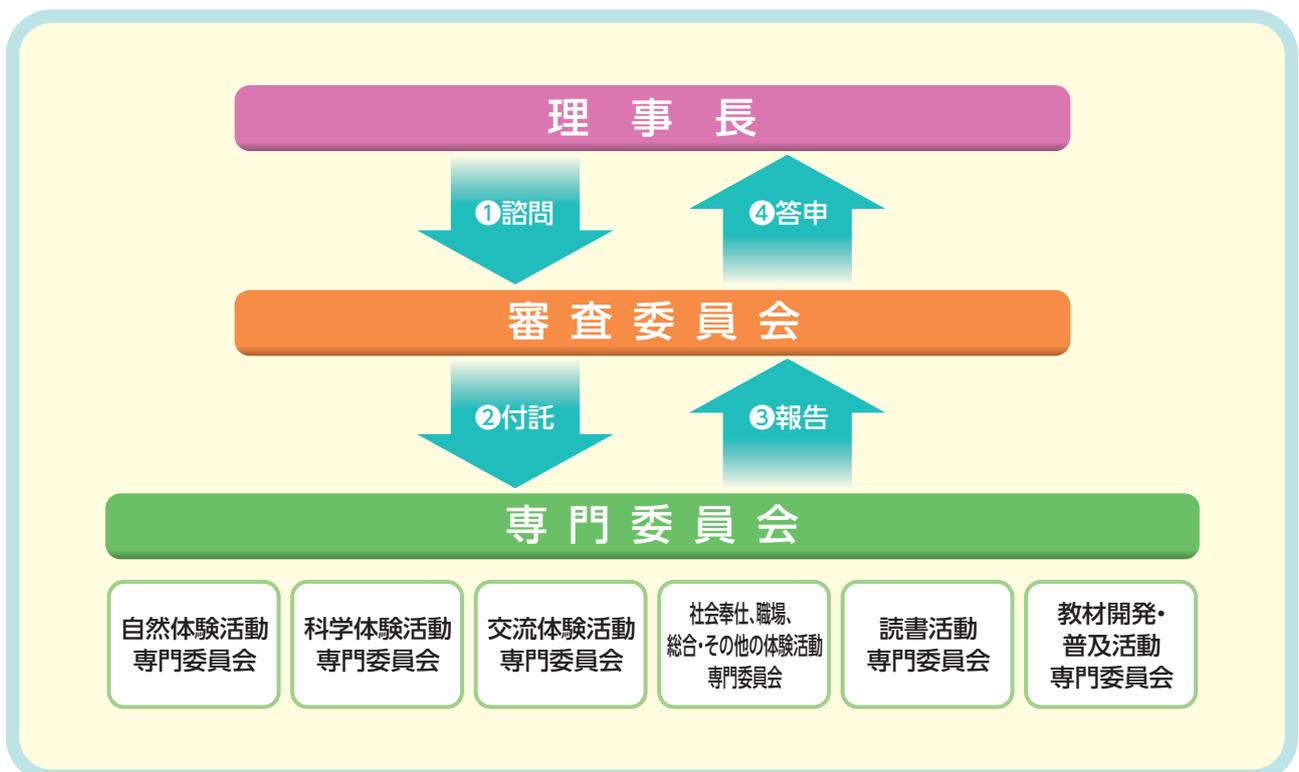
●助成の対象となる団体

青少年教育に関する団体（公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人、特定非営利活動法人、法人格を有しないが青少年のために活動する団体）

●助成金の額と審査方法

子どもゆめ基金では、体験活動等の分野において実務経験を持ち、青少年教育に高い識見を有する委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」を設置し、審査を行います。

その審査にあたっては、各団体から提出された申請書を専門的見地から合議により評価し、採択する活動及び助成金額を決定します。



「子どもゆめ基金」の概要

● 経済的に困難な状況にある子供の体験活動や読書活動への助成

● 背景

我が国の子供の相対的貧困率は、年々上昇しており、世代を超えた「貧困の連鎖」が指摘されるなど、子供の貧困は喫緊の課題であるとして、平成26年8月に「子供の貧困対策に関する大綱」が閣議決定（令和元年11月改訂）され、国において総合的な取組が推進されることとなりました。このような国の動向を踏まえ、子どもゆめ基金では経済的に困難な状況にある子供たちを対象に以下の取組を始めました。

● 取組の概要

民間団体が、経済的に困難な状況にある子供を対象とした体験活動や読書活動を行う場合、通常は助成対象外とされている参加者の交通費・宿泊費などの自己負担経費について、特に助成の対象とすることで、参加する子供の負担が軽減されるようにしました。その結果、令和2年度子どもゆめ基金助成活動には、128件の申請があり、このうち貧困対策に適合した申請を106件採択しました。（一次募集分のみ）

● 助成の対象となる活動

この助成の対象となる活動は、以下1、2のとおりです。

1. 民間の児童養護施設や母子生活支援施設及び一般財団法人全国母子寡婦福祉団体協議会並びにこれに加盟する母子福祉団体が行う体験活動や読書活動
2. 上記1. 以外の民間の機関・団体が、経済的に困難な状況にある子供の健やかな育成を目的として、児童養護施設や母子生活支援施設、地方公共団体などと協力して行う体験活動や読書活動

詳しくは、子どもゆめ基金募集案内をご覧ください。子どもゆめ基金部助成課までお問い合わせください。

● 普及啓発

子どもゆめ基金では、子供の体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発を行っています。

（子どもゆめ基金ガイドの作成、普及啓発事業の実施等）



子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ —申請までの流れ—

初めての団体、小さな団体のみなさまも、ご応募お待ちしております。

企画立案はどうすれば…

「どんな活動があるのかな？」

→子どもゆめ基金ガイドを読んで、これから企画する活動の参考にしてみましょう。

◎過去の子どもゆめ基金ガイドもホームページからご覧になれます。

URL : <https://yumekikin.niye.go.jp/download/index.html>



実際に申請してみたい…

「子どもゆめ基金のことがもっと知りたい！」

→子どもゆめ基金募集説明会に参加してみませんか？

◎毎年9～11月にかけて全国40都市以上で実施しています。会場では、申請のガイダンスや個別質問回答コーナーを設けています。

子どもゆめ基金部主催説明会

2021年9月17日(金) 国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都渋谷区) 13:30～

2021年10月1日(金) 天満研修センター (大阪府大阪市) 13:30～

2021年10月8日(金) JR津駅前 株式会社第一ビル (三重県津市) 13:30～

※新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となる場合もございます。詳しくは子どもゆめ基金ホームページをご確認ください。

URL : <https://yumekikin.niye.go.jp/>

◎さらに、申請にあたってわからないことや相談したいことがあれば、子どもゆめ基金までご連絡ください。(メールでのお問い合わせ : yume@niye.go.jp、電話でのお問い合わせ : 0120-57-9081月～金 9:00～17:45)

募集期間は？

「子どもゆめ基金の募集期間」

一次募集期間 郵送申請 令和3年10月1日(金)～11月16日(火) 消印有効

電子申請 令和3年10月1日(金)～11月30日(火) 17:00締切

二次募集期間 郵送申請 令和4年5月1日(日)～6月14日(火) 消印有効

電子申請 令和4年5月1日(日)～6月28日(火) 17:00締切

◎二次募集は市区町村規模・申請額50万円以下(様式B)のみとなります。

◎直接持参する場合は、平日(土日祝除く)9:00～17:45まで受け付けます。

◎初めて電子申請される場合は、申請の前にID申請が必要となります。

募集案内や申請書は、子どもゆめ基金ホームページからダウンロードできます。従来の郵送による申請に加え、電子申請システムを利用した申請も可能です。一度電子申請で手続をとると、実績報告書の作成や次回以降の申請も簡単にできます。



教材開発・普及活動に申請をお考えの方は、26ページへ。

子どもゆめ基金ガイドの活用方法 —申請のワンポイントアドバイス—

活動例を読んだら団体のメンバーと相談して、企画してみましょう！

STEP 1

活動のねらいとポイント

SDGsを知って環境のことを考えよう！

和歌山の海から環境について考えてみよう！

SDGsを体験！キャンプ本番

参加者の安全対策・健康管理

STEP 2

活動の成果と課題

活動からSDGsについての学びを聞き、ゲームを通じて子供たちは環境について身近に感じることができ、和歌山の自然環境を体験することにより、自分たちの環境のよさを改めて考える機会になりました。また、自然体験や体験などを通じて、SDGsが地球に与える影響や課題を改めて感じることができ、目で感じる機会となりました。夏休みのグループ活動では、体験からSDGsについて学び、自分たちの環境を大切にしようという思いが湧き出たようです。

STEP 3

自然体験の中で環境を考えよう！今、私たちにできること

実施団体 / 特定非営利活動法人 **きのくに子どもNPO**

実施期間：4月28日（日）～5月1日（月） 5月4日 5月5日 1日2日

実施場所 / 仮泊の地： 紀伊半島キャンプ場、和歌山市 河合コミュニティセンター、紀伊半島 糸島リゾートキャンプ場、和歌山県 田ノ浦海岸

実施地域 / 参加者との関係性： 和歌山県 和歌山市 1～6年生、小学生、中学生、保護者

実施方法 / プラン： 配布表「子ども育て支援NPO団体様」・広報誌（きのくに）・その他（団体HP）

実施人数：23人

STEP 4

活動の日程と内容

時刻	内容
13:00	キャンプ開始！スタッフや保護者による安全確認
14:00	SDGsについて「学習」・「体験」・「ゲーム」を通じて学ぶ
15:00	和歌山県立自然環境センターで「和歌山の自然環境について学ぶ」
16:00	和歌山県立自然環境センターで「和歌山の自然環境について学ぶ」
17:00	和歌山県立自然環境センターで「和歌山の自然環境について学ぶ」
18:00	和歌山県立自然環境センターで「和歌山の自然環境について学ぶ」
19:00	和歌山県立自然環境センターで「和歌山の自然環境について学ぶ」
20:00	和歌山県立自然環境センターで「和歌山の自然環境について学ぶ」
21:00	和歌山県立自然環境センターで「和歌山の自然環境について学ぶ」
22:00	和歌山県立自然環境センターで「和歌山の自然環境について学ぶ」
23:00	和歌山県立自然環境センターで「和歌山の自然環境について学ぶ」
24:00	和歌山県立自然環境センターで「和歌山の自然環境について学ぶ」

活動の成果と課題

活動からSDGsについての学びを聞き、ゲームを通じて子供たちは環境について身近に感じることができ、和歌山の自然環境を体験することにより、自分たちの環境のよさを改めて考える機会になりました。また、自然体験や体験などを通じて、SDGsが地球に与える影響や課題を改めて感じることができ、目で感じる機会となりました。夏休みのグループ活動では、体験からSDGsについて学び、自分たちの環境を大切にしようという思いが湧き出たようです。

STEP 5

SDGs 達成に向けた活動の支援アイコンを表示しました

各団体が取り組んでいる活動に関連する持続可能な開発目標（SDGs）のアイコンを表示しました。（アイコンの詳細は P.6 参照）

STEP 1 「活動の目的」を考えてみましょう

1. 活動を通じて、参加者に伝えたい・感じてほしい・身につけてほしいことは何でしょうか。
2. 活動の目的やねらいを達成するためにどのような工夫ができるでしょうか。
3. 目的やねらいを達成する内容・ポイントは、活動プログラムのどの部分に盛り込みますか。

STEP 2 「活動終了後の成果」を考えてみましょう

1. STEP1で考えた、活動の目的・ねらいが、どのように参加者の成長につながるかイメージしてみましょう。
2. 参加者の成長から、どのようなことが得られるでしょうか。団体の成長・発展について考えてみましょう。

STEP 3 具体的に活動内容を考えてみましょう

1. 参加者の興味を引きそうな活動名を考えてみましょう。
2. 活動の対象者・募集人数・日程・活動の概要を考えてみましょう。

STEP 4 「活動プログラム」の予定を組んでみましょう

1. STEP1～3で考えた内容を取り入れて、活動プログラムの1日の流れを考えてみましょう。
2. プログラム全体の運営は誰が担当するか、外部指導者は誰に依頼するか考えてみましょう。
3. 参加者の安全・体調管理にも留意しながら、タイムスケジュールを作成してみましょう。

STEP 5 SDGs 達成に向けた活動の支援アイコンを表示しました

各団体が取り組んでいる活動に関連する持続可能な開発目標（SDGs）のアイコンを表示しました。（アイコンの詳細は P.6 参照）

子どもゆめ基金助成活動情報サイトのご紹介

『子どもゆめ基金助成活動情報サイト』
<https://pr.yume.niye.go.jp>



こんな方にオススメ！

- 子どもゆめ基金助成活動情報サイトでは、北海道から沖縄まで当該年度に採択された助成活動がすべて掲載されています。その数約 5,000 件。
※助成団体からチラシが提出され承認されたら、掲載になります。
- 全国各地の多種多様なジャンルの体験活動や読書活動、フォーラム、指導者養成活動を見つけることができます。
- 次の方々にオススメです。
 - ・ 子供に様々な体験活動をさせたい方
 - ・ 助成金申請を検討している方
 - ・ 他の助成団体の活動を見てみたい方
 - ・ 自分自身の興味・関心を深めたいという方
- 参加費のかからない活動も多数あります。
- 子どもゆめ基金助成活動の中から、普段の生活の中ではなかなか味わうことのできない感動や、一生心に残る体験をしてみたい方はいかがでしょうか。

ポイントは？

- キャンプなどの自然体験活動、実験教室やものづくり・プログラミングのワークショップなどの科学体験活動、異年齢・異世代・地域間等の交流活動、おはなし会やストーリーテリングなどの読書活動、その他さまざまな遊びや体験から、お好きな活動を選ぶことができます。
- スマートフォン、タブレットからも利用可能です。
- 活動の分野・種類など、さまざまな検索方法で、やってみたい体験を簡単に探すことができます。

検索方法は？

- ① **開催地域**
ブロック、都道府県から選ぶことができます。
- ② **開催日**
クリックするとカレンダーが表示されますので、開催日を指定することができます。
- ③ **活動の分野・種類**
助成の対象となる活動の分野・種類から選ぶことができます。
- ④ **募集対象**
活動への参加対象を選ぶことができます。(複数選択可)
- ⑤ **参加費**
無料・有料から選ぶことができます。

気になる項目にチェックを入れていただき、『検索』ボタンを押すと、検索結果が表示されます。



国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金は 持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた活動を 支援しています。

持続可能な開発目標（SDGs）の詳細



目標1 [貧困]
あらゆる場所あらゆる形態の
貧困を終わらせる



目標2 [飢餓]
飢餓を終わらせ、食料安全保障
及び栄養の改善を実現し、
持続可能な農業を促進する



目標3 [保健]
あらゆる年齢のすべての人々の
健康的な生活を確保し、福祉を促進する



目標4 [教育]
すべての人に包摂的かつ公正な質の高い
教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



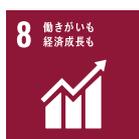
目標5 [ジェンダー]
ジェンダー平等を達成し、
すべての女性及び女児の
エンパワーメントを行う



目標6 [水・衛生]
すべての人々の水と衛生の利用可能性と
持続可能な管理を確保する



目標7 [エネルギー]
すべての人々の、安価かつ信頼できる
持続可能な近代的なエネルギーへの
アクセスを確保する



目標8 [経済成長と雇用]
包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての
人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある
人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する



**目標9 [インフラ、産業化、
イノベーション]**
強靱(レジリエント)なインフラ構築、
包摂的かつ持続可能な産業化の促進
及びイノベーションの推進を図る



目標10 [不平等]
国内及び各国家間の不平等を是正する



目標11 [持続可能な都市]
包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で
持続可能な都市及び人間居住を実現する



目標12 [持続可能な消費と生産]
持続可能な消費生産形態を確保する



目標13 [気候変動]
気候変動及びその影響を軽減するための
緊急対策を講じる



目標14 [海洋資源]
持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を
保全し、持続可能な形で利用する



目標15 [陸上資源]
陸域生態系の保護、回復、持続可能な利
用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠
化への対処ならびに土地の劣化の阻止・
回復及び生物多様性の損失を阻止する



目標16 [平和]
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会
を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提
供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責
任のある包摂的な制度を構築する



目標17 [実施手段]
持続可能な開発のための実施手段を
強化し、グローバル・パートナーシップを
活性化する



SDGsの実現に貢献する「持続可能な開発のための教育(ESD)」の紹介



持続可能な開発のための教育(ESD)とは

ESDとは、持続可能な社会の創り手を育むため、現代社会における地球規模の諸課題を自らに関わる問題として主体的に捉え、その解決に向け自分で考え、行動する力を身に付けるとともに、新たな価値観や行動等の変容をもたらすための教育であり、2002年に我が国がはじめて提唱した考え方です。

環境教育はもちろん、国際理解、文化多様性、人権、平和等の個別分野を持続可能な開発の観点から統合させ、分野横断的に行われております。

また、SDGsの全てのゴールの実現への貢献により、公正で持続可能な世界を目指す「ESD for 2030」という新たな国際枠組みが、国連総会において採択され、2021年5月のESD世界会議をキックオフとして、本格始動しています。

一緒に、SDGsの実現に貢献するESDの取組をはじめませんか。

第2期ESD国内実施計画について

オールジャパンで我が国のESDを推進するとともに、世界のESDをリードしていくために、関係省庁が連携し、第2期ESD国内実施計画を策定しました(2021年5月)。

この計画では、「ESD for 2030」の理念を踏まえ、ESDがSDGs達成への貢献に資するという考え方を初めて明確化するとともに、ジェンダー平等、2050年カーボンニュートラル、AI・DXの推進等を踏まえつつ持続可能な社会の創り手を育成することを明記しました。

あわせて、ESD実現のため多様なステークホルダーを巻き込む方策や、「ESD for 2030」に示された5つの優先分野ごとに国内の各ステークホルダーが実施する取組を記載しております。

詳しくは、QRコードをご覧ください。

第2期ESD国内実施計画のQRコードはこちら



国立夜須高原青少年自然の家でのESDを通じたSDGs達成支援

当施設キャラクター「ぎずレンジャー」

※「木酢(さず)」とは夜須高原特産の柑橘類



当施設では、里地里山の立地を活かした自然、芸術、文化、生活等の直接体験によるESDを通じ、SDGs達成に向けた皆さまの活動を支援しています。

サポート①

ESD/SDGsは夜須高原の心

サポート②

タイムリーな情報提供

サポート③

目的に合った提案型ESD

サポート④

多様な主体との連携推進



私たちは活動の拠り所となる「SDGs推進宣言」を掲げ、「YASUKOGEN SDGs Project」に活動を集約して青少年教育に取り組んでいます。職員は、「YASUKOGEN SDGs project」のロゴを配したユニフォームを着用し、をひとつに皆様をお迎えしています。

ガイドブックやコラムブック等を発行し、学校等での取り組みの推進にお役立ていただけるよう、資料を随時作成、公開しています。今後も随時発行して参りますので、ご活用下さい。

団体の従来のプログラムにESDの要素を加味し、教育効果が上がるように助言をさせていただいています。例えば、地元の小学校のご利用で「夜須高原の里地里山「地域文化」体験を通じたESD」として林間学校を実施しました。

ESDの推進には多様な主体との協働が不可欠です。自治体や民間企業との連携を促進するため「夜須高原 Support Project」と称する推進体制を整えています。これまで、「体験を通じたESD～筑前町「命」をつなぐ物語～」等を開催し、今後も多くの連携事業を展開して参ります。

上記の詳細については、ホームページで全て公開しておりますのでご参考下さい。



夜須高原 SDGs

〒838-0202 福岡県朝倉郡筑前町三箇山1103
Mail yasujigyou@niye.go.jp

TEL:0946-42-5811 FAX:0946-42-5880

https://yasu.niye.go.jp/yasukogen-sdgs-project/

自然体験の中で環境を考えよう！今、私たちにできること 実施団体／特定非営利活動法人 きのくに子どもNPO

- 活動期間／6月28日（日）～8月10日（月） 日帰り4回 宿泊2回 1泊2日
- 活動場所／紀の川市 細野溪流キャンプ場、和歌山市 河西コミュニティーセンター、紀美野町 ふるいちオートキャンプ場、和歌山市 田ノ浦海岸
- 募集地域／和歌山市とその周辺地域
- 募集対象／未就学児（1～5歳）、小学生（1～6年生）、中学生、保護者
- 募集方法／・チラシ（配布先：子ども子育て支援NPO団体等） ・広報誌（きのぴー） ・その他（団体HP）
- 構成員数／24人



キャンプ説明会での講師平井研先生による「SDGsについて」の学習会



田ノ浦漁港（なみはやドームビーチ）でのゴミ拾い

●活動のねらいとポイント

キャンプや事前活動での自然体験を通じて、SDGs や環境問題について考える機会をつくり、環境への意識を深めるきっかけにします。

具体的なプログラム名	主なポイント
SDGs を知って環境のことを考えよう！	講師を招いて SDGs の話や環境をテーマにしたゲームを楽しみながら、環境に対する意識や行動について考える機会にする。
和歌山の海から環境にいいことをやってみよう！	SDGs 目標 14 の「海の豊かさを守ろう！」を軸に海の清掃、ゴミ拾いを行うことで、環境への意識を高める機会にする。
SDGs を実践！キャンプ本番	活動の中で食材を使い切る、水などの資源を大切に使う、ゴミを出来るだけ出さないなど、環境に良いと思うことを、意識的に実践する。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 事前に近くの病院の位置確認を行った。川や海でのスタッフの人数を確保し、子供から目を離さないようにするとともに、参加者にも、安全管理の意識付けを行った。川や海での転倒や石などで手を切る危険性、火おこし時の火傷や刃物でのケガについても注意を促し、救急箱を持参した。

【健康管理】 熱中症対策として保冷剤、うちわ、タオル、熱中症対策飲料・飴などを確保するとともに、参加者に帽子の着用を促した。また、炎天下での活動の合間に休憩をいれ、参加者の様子を見ながら活動を進め、体調が悪くなったらすぐにスタッフに知らせるよう参加者に確認した。キャンプ当日は、スズメバチやまむしなどに対する注意喚起も行った。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
6/28	13:00	キャンプ説明会…スケジュールや注意事項などの全体説明
	14:00	「SDGsについて」学習会（講師：平井研先生） ・環境問題に関連したお話とクイズやゲーム
	15:00～ 15:30	高学年グループ（小学4年生以上）は、班に分かれて当日のメニューやキャンプ当日やりたいことを話し合う。
7/5	15:00	田ノ浦漁港集合
	15:15	ゴミ拾い開始
	16:00	拾ったゴミを集める。ゴミ拾いをして感じたことを話し合う。
	16:30～ 18:30	田ノ浦漁港にて自然観察や釣りをを行う。 (海の生き物を観察したり、生き物に直接触れる体験をする。)
7/26	9:00	きのくに子ども NPO 事務所前集合
	10:30	細野溪流キャンプ場到着 火おこしと飯盒炊さん
	12:00	昼食
	13:00	川遊び（異年齢の子ども同士の交流を深める）
	16:00	きのくに子ども NPO 事務所前到着・解散
8/7	14:00～ 15:00	高学年グループ（小学4年生以上）買い出し
8/8	9:00	きのくに子ども NPO 事務所前集合
	11:00	ふるいちオートキャンプ場到着
	12:30	開村式 オリエンテーション後昼食
	12:30	工作（ペットボトルで簡易ろ過機を作ろう！）
	13:00	川あそび
	16:00	夕食作り・飯盒炊さん (高学年・小学4年生以上)
	19:00	キャンプファイヤー
	20:00	ナイトハイキング（星空を見よう！）
	21:00	就寝
8/9	6:30	起床
	7:00	朝食
	8:00	朝の散歩・自然散策
	9:00	川遊び
	12:00	昼食
	13:00	後片付け・閉村式
	13:30	キャンプ場出発
	15:30	きのくに子ども NPO 事務所前解散

8月8日、9日の工程を8月9日、10日の日程で、別の参加者を対象として実施する。

●活動の成果と課題

講師から SDGs についてのお話を聞き、ゲームを通じて子供たちは環境について身近に感じることができ、和歌山の海辺の清掃活動をすることにより、自分たちの普段のゴミの捨て方について考える機会になりました。また、自然観察や魚釣りなどを通して、ゴミ問題が地球に住む生き物への影響をどれだけ与えているか、肌で感じる機会となりました。異年齢のグループ活動では、仲良くなるだけでなく、お互いの事を気遣う気持ちなどが生まれました。

今回のキャンプや事前活動を通じて、子供たちは和歌山の自然や環境について身近に感じるようになりました。しかし、キャンプの時だけでなく普段の生活から環境に配慮した行動が出来るようになるかが課題です。



細野溪流キャンプ場での飯盒炊さんの練習



ふるいちオートキャンプ場での簡易ろ過機の観察

●団体概要

【設立年月】 2001年3月

【URL】 kinokunikodomo.d.dooo.jp

【設立の経緯】 1974年「テレビづけにされていく子供たちに少しでも生きた文化を与えたい」という願いで「和歌山子ども劇場」が誕生。1984年に組織を分割し、和歌山西子ども劇場として独立。会員制の団体として生の舞台芸術や、子供が自ら創り出す活動を通して子供たちの成長をサポートしてきた。2001年3月「きのくに子どもNPO」と名称を改め、法人格を持つことを決定。2001年7月3日、県知事より特定非営利活動法人として認証を受けました。

【目的】 児童の権利に関する条約の精神に基づき、すべての子供に対し、豊かな生活体験・芸術体験を提供する事で、子供の発達・成長をサポートし、また子供の社会参画の機会の拡充を図るとともに、子供たちの生活および文化環境の向上に寄与することを目的とします。

【構成】 理事長1名、理事9名、監事1名、あわせて11名の団体構成員



防災・減災キャンプ ～災害時に君は生き延びれるか?～ 福岡編 実施団体／一般社団法人 72時間サバイバル教育協会

- 活動期間／11月22日（日）～11月23日（月） 宿泊1回 1泊2日
- 活動場所／音成国際野外活動センター
- 募集地域／福岡市 福岡市近郊
- 募集対象／小学生（1～6年生）、保護者
- 募集方法／チラシ（配布先：福岡県内小学校 関係機関・団体）
- 構成員数／3人



親子でロープワークを駆使して寝床を作る。色々考えて悪戦苦闘中！



今夜はこのシェルターで寝ます。それぞれで工夫を凝らしている。

●活動のねらいとポイント

防災が個人で求められている中、災害を想定した自然の厳しさを体感することで自助と共助の力を身につけ生き抜く知恵と心を育むことを目的とします。

具体的なプログラム名	主なポイント
災害活動概論 ～72時間の壁～	災害時における具体的な事例や指導者の体験談から災害時における活動に関するイメージを持たせる、また、災害時における72時間の重要性について学ぶ。
テント設営と避難所体験 ～シェルタープログラム～	災害時を想定して避難場所として、ブルーシートを利用して屋根や影を作ることができるようになる。ブルーシートや段ボールなどを使い避難所を設営し宿泊する。見ず知らずの人たちが集まる避難所でどれだけ共助を考えながら快適な空間ができるか体験を通して学ぶ。
ふりかえり	グループ内での活動をふりかえり、グループの状況を再確認できる状況を作るとともに、グループとしての連帯感を持たせる要素も取り入れる。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 事前の下見や打ち合わせを行い、危険個所の把握をする。また、CONE（自然体験活動推進協議会）リスクマネージャーやリスクマネジメント講座修了者を配置するとともに、各グループに指導者を配置し、常にグループ活動に注意を払う。

【健康管理】 グループごとに指導者が、参加者の健康状態を把握すると共に、応急救護資格を持ったスタッフが常駐して、参加者の健康管理にあたる。

●活動の日程・内容

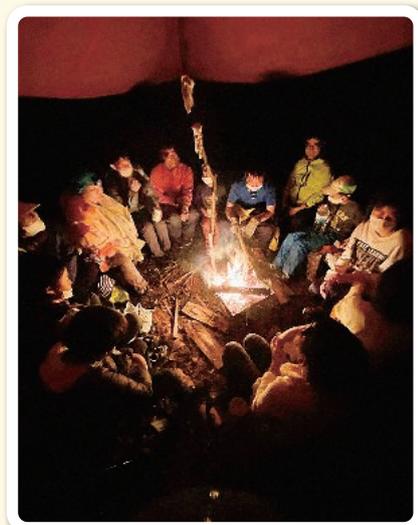
月/日	時間帯	プログラム内容
11/22	10:00	会場にて受付 開講式 主催者挨拶 講習会の概要
	11:00	72時間の壁「72時間の概要」 備品・装備品の確認
	12:00	シェルタープログラム シェルターの必要性 市販テントの検証 ロープワーク 参加者でシェルターを作る
	18:00	非常食を食べる
	19:00	ふりかえり
	20:30	就寝
11/23	7:00	起床 健康チェック 簡易な朝食 片付け
	10:00	ファイヤープログラム ファイヤーの概要・必要性 利便性 危険性を知る マッチを使う 小枝で焚き火 火を安定させる
	13:00	起こした火で食事作り
	14:30	ふりかえり まとめ
	15:00	閉講式 解散

●活動の成果と課題

参加者は雨の中、ブルーシートによるシェルター作り
に四苦八苦し、気温が下がってきた夜の就寝に不安を
少々感じながらも貴重な体験に非常に満足した様子で、
実際に被災した場合の大変さを身をもって知った感じで
した。またシェルターでの宿泊寒さ体験（非日常空間で
の体験学習のため、プログラム上、設定されているもの
です）後のファイヤープログラムだったので、火の重要
性を更に痛感していました。あえてトイレがないこの施
設での開催だったので、ライフラインが停まった際の避
難所の問題と重ねられて考えられたため、主催者として
はかなりのねらい通りの達成感があり、参加者は日頃の
有り難さと備えの重要性を身をもって知れた様子でした。



空き缶で食事を作る。ちょっとした工夫でいろんな料理がで
きる事を知る。



今日一日の事を火を囲んでみんなでふ
りかえりながらシェアする。

●団体概要

【設立年月】 2012年設立 一般社団法人としては2013年

【URL】 <https://72h.jp>

【設立の経緯】 東日本大震災のボランティアに通う中、保護者と子供が離れ離れになって避難したという経験談を多く
聞きました。これからも起こり得る自然災害に備えて、子供たちが自ら考えて行動出来る力を身につけ
る必要があると思い、震災の翌年からプロジェクトを立ち上げました。

【目的】 一人でも多くの方が自助力を身につけることで、共助が当たり前になる社会を創り、災害時だけでは
なく、社会課題が山積みの現代社会でも、助け合いが出来る社会にしていきます。

【構成】 理事8名



松江 雲南・奥出雲わくわくサイエンスクラブ 実施団体／島根わくわくサイエンス研究会

- 活動期間／9月19日（土）～3月20日（土） 日帰り14回
- 活動場所／城西ニコニコ交流館 旧雲南市立飯石小学校 奥出雲多根自然博物館
- 募集地域／島根県全域
- 募集対象／小学生（5・6年生）
- 募集方法／・チラシ（配布先：松江市 雲南市・奥出雲町の5・6年）
・ホームページによる募集
- 構成員数／12人



紫外線をあてて光った石を観察する子供たち



ミニミニたたらで砂鉄から鉄を作る子供たち

●活動のねらいとポイント

身近な自然事象を取り上げ、実験観察もの作りを通して科学の面白さや不思議さに触れさせ、探究心を高めていきたい。

具体的なプログラム名	主なポイント
紫外線を使った実験とものづくり	目に見えない紫外線の存在を、蛍光鉱物や紫外線ビーズを用い確かめる。紫外線チェッカーストラップや紫外線を当てると固くなるプラスチックでアクセサリを作り楽しむ。
静電気の不思議を体感しよう	布でこすったビニールテープと塩ビ管やアクリル管を使った電気クラゲの動きの面白さから、静電気の性質を追及していく。静電気には+（プラス）と-（マイナス）があることにも気づき、その性質を使って、静電気モーターを作り、思考を深める。
砂鉄と鉄の不思議な関係	島根県の出雲地方の斐伊川流域は、磁鉄鉱を多量に含む花崗岩地帯であり、その磁鉄鉱（砂鉄）を使って昔からたたら製鉄が行われてきた地域である。この地域の特徴を生かして、砂鉄と鉄の性質などを学び、子供たちにも砂鉄から鉄をつくる体験をさせる。

●参加者の安全対策・健康管理

- 【安全対策】** ・予備実験を入念に行い、事故の無いようにする。 ・グループに支援者を配置し、実験の様子を見守る。
・野外活動は、下見を行い安全な場所で実施する。
- 【健康管理】** ・子供の体調や食物アレルギーを予め調査し活動の中で細かい対応をする。
・子どもの緊急連絡先を把握しておく。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
9/19 9/26	10:00~ 12:00	テーマ：紫外線を使った実験とものづくり 紫外線を当てると蛍光を発する塗料や岩石を観察するところから出発し紫外線の性質を探っていく。紫外線のもつ特徴を生かした紫外線チェッカーやアクセサリを作って楽しむ。
10/17	10:00~ 12:00	テーマ：プログラミングでキャラクターを動かそう
10/24	10:00~ 12:00	テーマ：鬼の洗濯岩の秘密 島根半島の海岸に出かけ、地層を観察し、その成り立ちについて考える。また、化石を探す活動を通してこの場所がどんな環境であったのかについても推察する。
11/21 11/28	10:00~ 12:00	テーマ：砂鉄から鉄を取り出そうー鉄の不思議な性質ー 色々な実験を通して鉄と砂鉄の性質を見つけ出していく。その後砂の中から集めた砂鉄を「ミニミニたたら」の中で燃焼し、鉄の塊を作る作業を楽しむ。
12/19 12/26	10:00~ 12:00	テーマ：静電気のもつ不思議を体感しよう 電気クラゲを塩ビパイプやアクリルパイプを使って浮遊させて遊びながら静電気に関心を持ち、実験を通してその性質を探る。静電気モーターを作り、回るわけを考える。
1/23 1/30	10:00~ 12:00	テーマ：音のもつ不思議を楽しもう
2/20 2/27	10:00~ 12:00	テーマ：水を吸うプラスチック 身のまわりにたくさんあるいろいろな種類のプラスチックについて考える。

月/日	時間帯	プログラム内容
3/13 3/20	10:00~ 12:00	テーマ：水素で遊ぼう 水素シャボン玉を飛ばしたり火をつけたり、酸素と水素の混合気体に火をつけたりしながら水素の性質を見つけ出す。さらに、三徳実験器を使って燃やしても二酸化炭素を発生しない実験も行い、環境と結び付けて考えることができるようにする。

●活動の成果と課題

子供たちの身近な生活や自然の中の不思議に出あわせ、好奇心を高めながら観察・実験・ものづくり活動を通して体験的な活動を進めることができました。子供たちの自己評価では、とても楽しかった・楽しかったと評価した子供は95%を超え、わかったかできたかの評価は、75%の達成度でした。楽しみながら、しかもわかったという満足感を得られる活動になるように、さらに指導のねらいを吟味し、発達段階に沿った指導過程の工夫を重ねていくことが重要であると考えています。今年度はコロナ感染予防のため、参加人数を20人に制限し、5月から8月までの活動を停止しなければならなかったことは残念でした。



手作りの静電気モーターを回す子供たち



水素と酸素の混合気体に点火して水素の性質を調べる子供たち

●団体概要

【設立年月】 2014年3月

【設立の経緯】 2014年島根県内の元大学教授、元小中学校教師が中心となり、現大学教授、現中学校教師に呼びかけ、科学教育推進のための研究会を立ち上げました。

【目的】 ①島根県の松江市と雲南市・奥出雲町の5・6年生を対象とし、科学の実験や観察、野外活動を通して、科学の面白さや不思議さに触れたり、地域の自然の成り立ちや環境を見直し、探究心を高めたり科学的な思考を養っていきます。

②教員相互の指導力を高めるとともに、研究成果を地域や全国に発信していきます。

【構成】 指導者 23名 (70代：3名 60代：5名 50代：9名 40代：2名 30代：4名)
サポーター 4名 (60代：2名 30代：1名 20代：1名 その他適宜保護者の依頼)
事務担当 (指導も含む) 2名 (70代：1名 60代：1名)

みんなで楽しく交流しよう！ 実施団体／社会福祉法人 羊ヶ丘養護園

- 活動期間／9月13日（日）～11月1日（日） 日帰り2回
- 活動場所／苫小牧市、江別市
- 募集地域／札幌市
- 募集対象／未就学児（1～5歳）、小学生（1～6年生）、中学生、高校生
- 募集方法／ポスター（掲示先：羊ヶ丘養護園）
- 構成員数／15人



いろんな馬にも会えたよ



はじめての乗馬体験、緊張したよ！

●活動のねらいとポイント

子供の異年齢交流や職員との交流を目的とする要素として普段経験のできない体験を意図的に設けることで、子供の知らない事を知る機会にもなることをねらいとしました。

具体的なプログラム名	主なポイント
広大な自然の中で乗馬を楽しむ	夏の苫小牧の広大な自然の中で、普段経験の出来ない乗馬を経験し、自然に触れる。また、児童と職員と交流をしながら貴重な体験を分かち合う事を目的とする。
陶芸を体験し、生活の中の知識を深めよう	芸術の秋にちなんで、日常生活の中で使用しているお皿やコップなどがどういふ風に作られているか実践を通して学ぶ機会を設けることで児童一人ひとりの知識が増えるよう展開を行う。デザインなども自分の作りたい形にして自己表現の力を育むきっかけづくりにする。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】事前に子供たちにインフォメーションを行い、楽しんで参加できるよう展開する。

【健康管理】・コロナウイルス対策として当日の朝に検温の実施をした。

・活動中は水分補給などを行った。熱中症対策として事前に下見に行き、休憩できる場所の確認を行った。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
9/13	17:00	参加児童へのインフォメーション、活動グループなどを報告
9/19	9:00	羊ヶ丘養護園出発
	10:00	ノーザンホースパーク到着
	10:30	ホースショーの見学、厩舎見学、乗馬体験（引馬体験）
	12:00	昼食
	13:00	ホースショーの見学、厩舎見学、乗馬体験（引馬体験）
	14:30	ノーザンホースパーク出発
	15:30	羊ヶ丘養護園到着
10/31	17:00	参加児童へのインフォメーション、活動グループなどを報告
11/1	12:30	羊ヶ丘養護園出発
	13:00	アースドリーム到着（動物とのふれあい）
	14:00	アースドリーム出発
	14:30	アトリエ陶到着（陶芸体験）
	16:30	アトリエ陶出発
	17:30	羊ヶ丘養護園到着

●活動の成果と課題

昨年度はコロナウイルスの影響もあり、目的に沿った体験ができるように活動の展開を何度も検討し、事前の下見等準備を進め、無事実施することができました。乗馬体験をさせていただいた施設では、乗馬の他にホースショーの見学や、馬に触れ合える場所もあり、児童間、児童と職員が楽しく会話をしながら過ごすことができました。陶芸体験は、初めての陶芸に苦慮したり、上手な子が手伝ってあげたり、完成作品を見せ合い会話をしながら楽しむ姿がとても多く見られ、普段の生活で自作した食器を使用している児童もいました。今後の課題としては、当施設の入所児童の中高生以上の割合が半分以上と多くなっており、異年齢での活動が以前より難しくなってきているのでプログラムを考える上で工夫が必要であると感じています。



はじめてのろくろを体験したよ！



みんなで楽しい、陶芸体験！

●団体概要



【設立年月】 1956年（昭和31年）10月

【URL】 <http://hitujigaokayougoen.or.jp/>

【設立の経緯】 昭和31年、設立者である有田京作氏は、北海道の冷害に苦しむ家庭や生活に困窮する母子家庭他、家庭環境に恵まれない子ども達に安心と信頼に満ちた生活環境の中で健全育成に寄与することを目的に、羊ヶ丘養護園を創設、昭和33年に社会福祉法人羊ヶ丘養護園として認可を受けました。

【目的】 当園は日ごろのケアの中で基本方針である「子供を大切にして児童養護にあたる」という観点から養育を行っており、園で畑を作って家庭菜園を実施したり、公園に行き自然を探したり、生き物に触れる活動を実施しています。他には地域の活動にもコロナウイルスが流行する前は積極的に参加していました。

【構成】 施設長1名、指導員14名（指導部長、主任含む）、保育士14名（小規模施設ホーム長、個別対応職員含む）、事務長1名、心理士1名、栄養士1名の計32名で運営。男女比は男性9名、女性23名。年齢は20代から60代。

青森市 「あそびの城」 実施団体／青森市レクリエーション協会

- 活動期間／9月5日（土）～12月12日（土） 日帰り10回
- 活動場所／青森市放課後児童会・児童館 等
- 募集地域／青森市
- 募集対象／小学生（1～6年生）
- 募集方法／チラシ（配布先：青森市放課後児童会・児童館）
- 構成員数／14人



「3B体操」のベルを使ってダンスをしている様子



箱づくり（クラフト）をしている様子。

●活動のねらいとポイント

大人が意図的・計画的に活動の場をつくり、異年齢や異世代の子供たちの交流を通じて互いの理解を深めさせる。

具体的なプログラム名	主なポイント
【自由遊び】	活動場所に事前にあそび道具を設置しておき、集まった子供たちから、好きな遊びを自由に遊んでもらう。
【アイスブレイキング】	指導者が集団ゲームを活用しながら子供の緊張をほぐし、安心感を持たせながら意図的・計画的に交流を促進させていく。
【メインプログラム】	「ゲーム」「ソング」「ダンス」「ニュースポーツ」「クラフト」「ヨガ」「3B体操」などの活動を展開。

●参加者の安全対策・健康管理

- 【安全対策】 ・参加者名簿を作成し、子供たち全員が保険に加入。
- 【健康管理】 ・活動前にアルコールで消毒、体温、健康状態の確認。
- ・マスク着用の確認。
- ・熱中症対策のため水分補給。
- ・換気の徹底。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
午前の部		
9/5 9/19 9/26 10/24 12/12	10:00~ 10:20	【ジャンピングボール】 空気の入った大きなボールにまたがって自由にジャンプして遊ぶ。
	10:20~ 10:25	【ふれあいカード】 10枚つづりのカードを全員に配布。ジャンケンで勝ったら相手からカードを1枚もらう。
	10:25~ 11:00	【ラダーゲッター】 アメリカ生まれのニュースポーツ。ひものついたボールをラダーに絡める。ラダーは3段で上から3点、2点、1点。グループで代わる代わる投げて、早く21点をゲットしたチームが勝ち。
	11:00~ 12:30	整理体操 まとめ
午後の部		
9/5 9/19 9/26 10/24 12/12	14:00~ 14:20	【ジャンピングボール】 空気の入った大きなボールにまたがって自由にジャンプして遊ぶ。
	14:20~ 14:25	【ふれあいカード】 10枚つづりのカードを全員に配布。ジャンケンで勝ったら相手からカードを1枚もらう。
	14:25~ 16:00	【ラダーゲッター】 アメリカ生まれのニュースポーツ。ひものついたボールをラダーに絡める。ラダーは3段で上から3点、2点、1点。グループで代わる代わる投げて、早く21点をゲットしたチームが勝ち。
	16:00~ 16:30	整理体操 まとめ

●活動の成果と課題

コロナ禍での実施でしたが、感染を防ぐため、スタッフ、関係者と細部にわたって連絡を取り、細心の注意を払って実施しました。

1年生から6年生までの異年齢の子供たちが、交流し、協力し、団結し、毎回大いに盛り上がり、歓声を上げて喜んでくれました。子供たちは遊びをとおして、楽しみながらルールを学び、コミュニケーションの取り方を体験できたと思います。また、担当したインストラクターにとっても毎回、計画し (Plan)、実践し (Do)、反省し (Check)、新しいことに取り組んでいく (Action) というPDCAを繰り返すことによって、指導技術が磨かれていったと思います。今後の課題としては、もっと参加者が増えるように、スタッフで十分に検討してみたいと思います。



手話で（手のひらを太陽に）をしている様子



オセロゲームで異年齢の子供たちで交流している様子。

●団体概要



【設立年月】 昭和47年4月1日

【URL】 <http://www.7a.biglobe.ne.jp/~aomoriken-rec/>

【設立の経緯】 レクリエーションに関する研究と実践を通して、会員の指導力と、レクリエーション技術の向上を図り、青森市におけるレクリエーション運動の振興と発展に寄与するために設立しました。

【目的】 子供から高齢者まで全青森市民を対象にレクリエーション運動を展開し、青森市民の健康寿命延伸に努め、明るい街づくりを目指します。

【構成】 会長・副会長・事務局長を含め会員数91名。大学教授、元学校長、看護師、幼稚園教諭、保育士、介護福祉士、3B体操指導者、ヨガ指導者等。平均年齢65歳。男性20%、女性80%。

むささびっ子の森開拓団 実施団体/NPO チームばんどり

- 活動期間／4月18日（日）～3月13日（日） 日帰り12回
- 活動場所／海上の森（愛知県瀬戸市）
- 募集地域／愛知県内
- 募集対象／小学生（1～6年生）、中学生、高校生、保護者
- 募集方法／・チラシ（配布先：県内施設）
・その他（Web サイト）
- 構成員数／3人



みんなで階段づくり



階段できあがり！



川から流木を引き上げろ！

●活動のねらいとポイント

幼児期から海上の森で育んだ「生きる力」を駆使して、山しごとや野良しごとをすることで里山の自然へ働きかけ、持続可能な環境・社会づくりに貢献する人材を育成することを目的としています。

具体的なプログラム名	主なポイント
巡視・道普請（みちぶしん）	森を巡視して、枯枝や崩落など危険な場所を見つけ、指導者や大人の手を借りながら、看板や階段を作ったり、遊歩道の修繕をする。
川さらい	子供もおとなも協力して川底に溜まった落ち葉や岩に引っかかった草や枝を引き上げ、土手を修繕する。川の氾濫を防ぎ、安全な遊歩道にする。
野良しごと	草ぼうぼうの休耕田を草刈りし、一から耕して畝を作り、畑に。草を漉き込み、昔ながらの方法で芋を作る。芋ができたら芋煮会で収穫を祝う。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 事前下見と打合せを徹底し、必要に応じてフィールドの整備を行う。装備や準備物の事前連絡を徹底し、専門家の指導を受けながら、ヘルメットを着用して活動する。救命救急講習を受講したスタッフを配置する。

【健康管理】 アレルギーや体調チェック、コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、現在は人数を制限して開催している。熱中症やハチ対策を十分に準備する。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
4/18	10:00~ 15:30	むささびっ子の森開拓団結成！力を合わせろ！鏝をひけ！大好きなこの森を俺たち、わたしたちが守る。そして楽しむ。「むささびっ子の森開拓団」の結成だ。 ◆オリエンテーション/森の巡視/修繕計画づくり
5/9	10:00~ 15:30	道普請(みちづしん)1:崩れた道や、朽ちてしまった階段をつくりなおそう。しっかり計画を立て、準備をしたから大丈夫。みんなが安全に楽しめる森にしよう。 ◆オリエンテーション/道づくり、階段づくり/作業
6/6	10:00~ 15:30	野良しごと1:かつて里のくらしを支えていた畑。今は草ぼうぼうだけど、耕して生き返らせよう。土作りも大事だ。どんな作物をつくろうか。 ◆オリエンテーション/土作り/畑の整備/芋植え
7/4	10:00~ 15:30	野良しごと2:雨と夏の太陽の光で作物はすくすく育っている。伸びて遊歩道に飛び出したササや草を刈ろう。刈った草は肥料になるぞ。自然の力を借りる。それが里山の暮らしだ。 ◆オリエンテーション/草刈り/畑の手入れ
8/22	10:00~ 15:30	川さらい1:川底に溜まった落ち葉や岩に引っかかった草や枝を引き上げよう。細かな作業が大きな災害やケガを防ぐんだ。汗をかいた後には川遊びが待ってるぞ！ ◆オリエンテーション/川整備/川遊び
9/12	10:00~ 15:30	川さらい2:川底に溜まった落ち葉や岩に引っかかった草や枝を引き上げよう。細かな作業が大きな災害やケガを防ぐんだ。汗をかいた後には川遊びが待ってるぞ！ ◆オリエンテーション/川整備/川遊び
10/10	10:00~ 15:30	収穫1:みのりの秋がやってきた。おひさま、雨、風、土、水、すべての自然に感謝して、恵みを受け取ろう。 ◆オリエンテーション/さつまいも収穫/畑作業
11/7	10:00~ 15:30	木こりしごと:どの木を伐るかを決めて、準備をして、木を伐って、枝を打ち、玉切りして、運び出す。それが木こりしごと。その木を使うために加工する。 ◆オリエンテーション/除伐/杭づくり
12/19	10:00~ 15:30	収穫2(芋煮会):タネをまき、草刈りをし、大切に育ててきた作物。働く楽しめとおいしさを分かち合おう。 ◆オリエンテーション/里芋収穫/芋煮会/畑作業
1/23	10:00~ 15:30	道普請(みちづしん)2:崩れた道や、朽ちてしまった階段をつくりなおそう。しっかり計画を立て、準備をしたから大丈夫。みんなが安全に楽しめる森にしよう。 ◆オリエンテーション/道づくり、階段づくり/作業
2/27	10:00~ 15:30	炭焼き:みんなで伐った木で炭焼きに挑戦。温度は上がるか?ちゃんと炭になるか?みんなで協力して火の番だ。 ◆オリエンテーション/運び込み/炭焼き(居残りオプションあり)
3/13	10:00~ 15:30	きこり仕事とイノシシ柵づくり:以前に伐ったコナラをホダ木にして、きのこの菌打ちをしよう。イノシシに食べられてしまわないように、柵も作る。自然との知恵比べだ。 ◆オリエンテーション/シイタケ菌打ち/イノシシ柵づくり

●活動の成果と課題

自然体験活動として活動した「むささびっ子の森くらぶ」、「むささびっ子の森たんけん隊」での活動から一歩踏み込んで、森の現状を肌で感じ、自分たちが体を動かして「働く」ことで、その森が変わっていきます。また、楽しんで行っている活動が、多くの人の役に立っているということを感じることができました。

子供だけでなく、親子で継続して里山に関わり続けることで、森や自然への関心や愛着が深まり、将来林業に携わることを職業にすることを夢見る子供たちも出ました。年齢的に成長するにつれ、活動から離れていくことは自然なことですが、いつでも戻って来れるようなサードプレイスとしての役割ももってほしいと思います。労働や奉仕が中心の活動なので、誰でもができるわけではないので、前段階の自然体験での楽しさが重要であると再認識するところです。



里芋を植える様子



畑になったよ！

●団体概要

【設立年月】 2006年4月

【URL】 <https://sites.google.com/view/teambandori/>

【設立の経緯】 2005年 愛・地球博「森の自然学校・里の自然学校」においてインタープリターとして職責を果たした者が集い、愛・地球博の理念を継承すべく発足しました。

【目的】 自然に寄り添った丁寧な生き方・暮らし方を再構築するため、環境教育事業、スローライフ普及啓発事業、コミュニケーション事業、感性開発事業を柱に活動しています。

【構成】 代表兼事務局1名(40代女性)、会計1名(50代男性)、監事1名(70代女性)の3名で構成されています。



キッズドリームワーク in プラザ 実施団体／特定非営利活動法人 芸術文化振興市民ネット新庄

- 活動期間／12月20日（日） 日帰り1回
- 活動場所／新庄市民プラザ
- 募集地域／新庄市を中心にした最上地域
- 募集対象／小学生（1～6年生）
- 募集方法／・チラシ（配布先：各小学校、公共施設等）
・ポスター（掲示先：公共施設等）
- 構成員数／47人（各企業等の指導者含む）



薬剤師体験で薬を包んでいる様子



カイロプラクター体験で実践している様子

●活動のねらいとポイント

未来を担う子供たちが職業体験をし、仕事に対する具体的なイメージを膨らませることで、将来の夢を持つきっかけにするとともに、好奇心や学ぶ心を豊かにします。

具体的なプログラム名	主なポイント
オリエンテーション	参加児童に集ってもらい、協力いただく企業の紹介と、職業体験するうえでのポイントや注意事項を説明し、目的を明確にする。
職業体験	希望のブースにわかれ、それぞれ職業体験をしてもらう。実際に体験することで、面白さや難しさを感じてもらい、仕事への興味を引き出す。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 避難経路を含め、会場や備品等の確認の他、各所に消毒液を置くことや、密にならないよう人数制限をする等、感染症対策を行う。

【健康管理】 参加当日の検温・申告とマスクの着用をお願いし、体調が悪い時は参加を遠慮していただく。また、途中で体調が悪くなった児童には速やかに対応する。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
12/20	①の日程（10時～の参加者）	
	9:30	受付
	10:00	オリエンテーション（協力企業の紹介、注意事項の説明、各ブースへ移動）
	10:15	職業体験
12/20	②の日程（11時～の参加者）	
	10:30	受付
	11:00	オリエンテーション（協力企業の紹介、注意事項の説明、各ブースへ移動）
	11:15	職業体験
	12:00	終了・解散
<職業体験> ・ 建築業・警察官・消防士・薬剤師・カイロプラクター・自衛隊 ・ 看護師・助産師・花屋さん・ネイリスト ・ プライダル・和菓子職人		

●活動の成果と課題

実際に体験してみて、楽しいだけではなく難しい場面も経験したことで、普段見えないところを知ることができた。参加児童からの感想がありました。また、引率の保護者からは、わが子の真剣に取り組む姿を見ることができ、感謝と事業継続の声が多く寄せられました。親子にとって、一緒に将来を考える有意義な時間となったようで、大変うれしく思います。

また、ご協力いただいた企業からも、子供たちのためにもなり、自社を知ってもらいたい機会であると、今後も協力を続けたいとの声をいただきました。

今回は、子供たちの集中力を考慮し、短時間の設定としましたが、逆に物足りなかったようなので、今後の課題として時間配分をもう少し工夫して行いたいと思います。

地元には他にも様々な企業があるので、ご協力いただける企業を増やし、参加できる子供の人数も経験も増やせるよう努めていきます。



消防士体験で救命救急法を行っている様子



結婚式場体験でトレイの持ち方を練習している様子

●団体概要

【設立年月】 2004年12月

【設立の経緯】 平成16年に地域の生涯学習及び芸術文化活動の振興、並びに地域の活性化を図ることを目的に結成。新庄市における新しい時代に対応する行財政運営の一つとして、指定管理者制度が導入され、社会的要請に応えるため、平成17年に法人を設立。公共施設の管理運営に参加。新庄地域の発展につとめるため、活動しています。

【目的】 新庄地域の生涯学習及び、芸術文化活動に関する事業を実施するとともに、参加する団体、個人に対し、その活動が円滑かつ効果的に推進するよう支援することによって、地域の活性化に寄与することを目的としています。

【構成】 理事長以下役員6名、会員9名

こどものけんちくがっこう

実施団体／特定非営利活動法人 こどものけんちくがっこう

- 活動期間／10月24日（土）～3月20日（土） 日帰り6回
- 活動場所／オンライン（鹿児島大学産学・地域共創センターから配信）
- 募集地域／全国
- 募集対象／小学生（1～6年生）、中学生
- 募集方法／その他（ホームページ、メール）
- 構成員数／13人



オンラインによるモノづくりの様子

●活動のねらいとポイント

オンライン授業により、場所に捉われず子供たちが環境や建築について学ぶ機会を提供する。

具体的なプログラム名	主なポイント
建築の基礎を学ぼう	建築の基礎的な原理や材料などについて学ぶ、工作と実験が中心の授業
名建築を学ぼう	名建築を通して建築の美しさや楽しさを学ぶ、座学と工作が中心の授業
世界の住まいを学ぼう	世界の住宅や生活習慣をオンラインでつなぎ、解説付きで住宅を見学する授業

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 オンラインのため、怪我の恐れのある道具の使用は控えた。

【健康管理】 適宜、休憩をとるように努めた。



●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
下記の各プログラムを2時間ずつ、計6時間のオンライン授業		
10/24	10:00~12:00	1限: 建築の基礎 「ガラスとは?」
	13:00~15:00	2限: 名建築 「ミース・ファン・デル・ローエの建築」
	15:00~17:30	3限: 世界の住まい 「フィンランドとスウェーデンの住まい」
11/28	10:00~12:00	1限: 建築の基礎 「木材とは?」
	13:00~15:00	2限: 名建築 「日本の住まい: 北海道・沖縄」
	15:00~17:30	3限: 世界の住まい 「フランク・ロイド・ライトの建築」
12/19	10:00~12:00	1限: 建築の基礎 「鉄骨とは?」
	13:00~15:00	2限: 名建築 「ル・コルビュジェの建築」
	15:00~17:30	3限: 世界の住まい 「スペインとフィンランドの住まい」
1/23	10:00~12:00	1限: 建築の基礎 「コンクリートとは?」(前編)
	13:00~15:00	2限: 名建築 「ザハ・ハディッドの建築」
	15:00~17:30	3限: 世界の住まい「世界の住まいを学ぼう! メキシコ・タイ編」
2/6	10:00~12:00	1限: 建築の基礎 「コンクリートとは?」(後編)
	13:00~15:00	2限: 名建築 「坂茂の建築」
	15:00~17:30	3限: 世界の住まい「世界の住まいを学ぼう! フィンランド・イギリス編」
3/20	16:30~18:30	「世界の住まいを学ぼう! イタリア・フランス編」

●活動の成果と課題

新型コロナウイルスの影響により、当初の予定を変更し、全ての授業をオンラインで実施しました。子供たちとの距離感や、ものづくりの際の指導の難しさなどはありませんでしたが、対面授業と遜色のない教育効果を得られたと実感しています。また、全国から参加者を得たことは、本活動の今後の展開にとって大きな収穫となりました。オンラインでの授業実施により、本活動の目的は充分に達成できました。ただし、オンライン授業への抵抗があるご家庭が多いようにも見受けられ今後、オンラインに対する知識や活用する能力が向上すれば、より多様な授業形式を展開することも可能だと感じています。



フィンランド・スウェーデンとオンラインでつないだ「世界の住まいを学ぼう」の授業の様子

●団体概要



【設立年月】 2016年4月

【URL】 <https://kodomonokenchiku.blogspot.com>

【設立の経緯】 住環境について初等教育段階から学ぶ機会を創出するため、大学と工務店の産学協同により設立しました。

【目的】 自分たちが暮らす地域の環境について、またそこで住まうことについて、子供たちが“ものづくり”を通して体験的に学ぶ場を提供します。毎月の対面定期授業や、実際の建物を建設する夏期課外授業など、多彩な授業を通年で実施しています。

【構成】 大学教員、一級建築士、大工、デザイナー、学生(建築学科1-4年生、建築学専攻1-2年生、農学専攻1年生) 活動年数:5年 年齢層:20~40代 男女比:6:4

自然体験

科学体験

交流体験

社会奉仕

職場体験

その他の体験

読書

教材

見て、触れて、感じて、深まる絵本の世界 実施団体／びえい・ふらのこどもの本ネットワーク

- 活動期間／10月3日（土）～10月4日（日） 日帰り2回
- 活動場所／上富良野町図書館
- 募集地域／上富良野町、美瑛町及び JR 富良野線沿線
- 募集対象／未就学児（1～5歳）、小学生（1～6年生）、中学生、高校生、一般成人、保護者
- 募集方法／・チラシ（配布先：町内学校及び沿線自治体教育委員会）
・ポスター（掲示先：町内学校及び沿線自治体教育委員会）
- 構成員数／20人



おしゃべりタイムの様子



選んだフェルトに下絵を描いている様子

●活動のねらいとポイント

作者による絵本誕生のお話と絵本をベースにしたワークショップを通して絵本の世界を楽しんでもらいます。

具体的なプログラム名	主なポイント
山福朱実さんとの「おしゃべりたいむ」	絵本作家・山福朱実さんに創作に対する思い、伝えたいことなどをお話いただき参加者とのフリートークなども行いながら絵本を身近に感じてもらう。
『ヤマネコ毛布』づくりに挑戦！	版画絵本『ヤマネコ毛布』をモチーフにフェルト布に思い思いの刺繍をし、つなぎ合わせて毛布を作り作品世界を楽しむ。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 傷害保険に加入するとともに、新型コロナウイルス感染予防対策として、換気・備品の使用前後の消毒・参加者の名簿記載・手指消毒・マスク着用を徹底する。

【健康管理】 実施前の検温等を行い体調がすぐれない場合は参加を遠慮していただく。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
10/3	9:00	講師である絵本の作者と「おしゃべりたいむ」の進行及び翌日のワークショップの流れや注意点などの確認
	14:30	「山福せんせいとおしゃべりたいむ」作者による朗読、制作や作品に込めた思い、参加者とのフリートークを実施
10/4	10:00	「フェルトで『ヤマネコ毛布』づくりに挑戦！」団体構成員による『ヤマネコ毛布』の朗読の後、絵本の作者と一緒に絵本に登場する「ヤマネコ毛布」のオリジナル版を作成

●活動の成果と課題

この活動は、絵本作家山福朱実さんの版画の力強さや優しさなど、子供たちが知らない新たな世界に触れてほしいと思い企画しました。作者のご好意により版画や刺繍を会場に飾ることができ、『ヤマネコ毛布』制作時の心境をお話しいただいたり、作品を朗読していただき、ワークショップではみんなで登場する動物の気持ちを考えながら刺繍を作りました。作者の思いを聞き作品に入り込んだ刺繍体験によって絵本世界を感じ、まさに見て、触れて、聞いて、体験したことで絵本の魅力が広がりました。

今後は、私たちの朗読スキルとともにコミュニケーション能力の向上を意識しながら子供たちに接していくことで、参加者数だけでなく企画自体も充実させ、絵本の世界を子供たちと一緒に楽しんでもらえる仲間を得ることに活かしていきたいと考えています。



出来上がった作品



できあがったフェルトをつなげている様子

●団体概要

【設立年月】 2007年1月

【設立の経緯】 美瑛町と富良野線沿線の2町1市で活動する読み聞かせボランティアグループが、子供たちにより良い絵本やものがたりの世界を提供したいとの思いからネットワークを結成しました。

【目的】 お互いの活動紹介や自己研鑽のための研修会等を開催し、子供たちへ「絵本」や「ものがたり」の魅力、素晴らしさを伝えます。

【構成】 美瑛町、上富良野町、中富良野町、富良野市で活動するボランティアグループで四団体20名。年齢構成は50～60代を中心に30代から70代までで男性は2名。

子供向け教材開発・普及活動への申請をお考えの方へ

子どもゆめ基金で何ができるの？

- ・開発したいアプリや Web ページを作成して、広く社会に提供することができます。企画立案は応募団体で行っていただきますが、実際のプログラミング等は外部に委託することもできます。
- ・開発した教材を普及するための費用も、助成期間中は利用することができます。助成期間が終了した後は、応募団体の責任で行っていただきます。

助成事例

KIDS のなんでも相談会！

一般社団法人フリンジシアターアソシエーション

<http://www.dbf.jp/kids/nan/>



本教材は、子どもたちがケアリングの仕事を通じた他者との関わりの中で、他者を演じながら「相手の話を傾聴し、相手の心に寄り添って考える力」、「相手に伝わるように語る力」を獲得していくことができる、アクティブラーニング型プログラムです。



2015年に行われた研究では、今後10年～20年のうちに労働人口のうち約49%の職業が機械に置き換わるとされていますが、その中で、人の心に寄り添う「ケアリング」に関わる職は残ると言われています。そこで私たちは、AIの時代でも欠かすことのできない、人と人との関わりによる「ケアリング」の方法を誰でも簡単に、楽しく学べることを目指し、この教材を作りました。

本教材では、近未来の架空の都市の市役所、「ナンディモタウンセンター」を舞台に、アンドロイド「KAMIMO」のアテンドの元、市民相談会が行われます。子どもたちは料理人やお医者さんなどの「専門家」、悩み相談に来た「相談者」、そして、相談会の様子を見守る「精霊」、というそれぞれの役割になりきり、決められた時間内での相談プロセスを体験できます。

本教材は主に児童館や学童保育、子ども食堂で働く職員や地域ボランティアの方を対象としていますが、ファシリテーションの経験が無くても、画面の進行に沿ってボタンを押していくだけで、教材を実施することができます。

注意すべきポイント

開発する教材に使う素材の著作権、教材の中で扱われる写真と関連する権利、さらに、子供たちの個人情報の扱いに留意が必要です。

下記の例を参考にしてください。

- ・素材の提供者（原著者）には、譲渡できない著作権者人格権があります。作成した教材を今後、団体の判断で修正するためには、その著作権者人格権を行使しないという契約をしておく必要があります。
- ・教材の中に写真がある場合、そこに写っている人の許諾を得ておく必要があります（肖像権等）。
- ・自由に投稿できるようなページでは、子供たちがいろいろな個人情報を書き込んでしまう可能性があります。第三者に悪用されない仕組みが必要です。

過去に開発された教材は下記 URL よりご覧になれます。

https://yumekikin.niye.go.jp/jyosei_syoukai/kyouzai.html



申請の主な流れ

ID申請

- ・電子申請システムを初めて利用される場合は、事前に ID の申請・発行手続きが必要です。子どもゆめ基金ホームページから電子申請システムに入り、ID 申請を行ってください。
- ・ID の発行は自動ではなく、職員が手作業で行っているため、土日祝日は発行できません。
- ・ID 申請の集中が予想される締切り間近は ID の発行に時間がかかりますので、余裕をもって申請してください。

電子申請 (企画書)

- ・申請した ID で電子申請システムにログインをし、必要事項を入力し申請を行ってください。
- ・**応募締切：2021年11月4日(木) 17時締切**

一次審査

- ・審査委員会による**一次審査（書面審査）**を行い、一次採否を決定します。
- ・採択・不採択の審査結果を【2021年12月中（予定）】に通知します。

電子申請 (申請書)

- ・**※一次審査で採択された場合のみ**
- ・申請した ID で電子申請システムにログインをし、必要事項を入力し申請を行ってください。

二次審査

- ・審査委員会による**二次審査（申請書による書面審査及びプレゼンテーション審査）**を行い、採否を決定します。
- ・採択・不採択の審査結果を【2022年4月上旬（予定）】に通知します。

交付決定

- ・採否結果をメールにてお知らせします（郵送による通知は行いません）。交付決定通知書または不採択通知書は、電子申請システムにて確認・ダウンロードしてください。
- ・申請額に対して決定額が減額となっている場合や交付条件が附されている場合がありますので、交付決定通知書の内容をよくご確認ください。

日中韓子ども童話交流事業

日本・中国・韓国の子どもたちが一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知るとともに、一緒に語り合い、協力して創作絵本を作成することで、3カ国の文化の特徴や共通性、違いなどを知り、相互に友情を深めあうことを趣旨としています。本事業は毎年度テーマを設定し、令和元年度は「園」をテーマに活動を行いました。なお、本事業は平成14年から実施され、平成23年からは3カ国による巡回開催により実施しています(令和2～3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い延期)。

- 事業期間/例年8月17日～23日(6泊7日)
- 実施場所/日本、中国、韓国(3カ国による巡回開催) ※令和元年度は中国・北京市、河北省承德市にて開催
- 参加者/小学生4～6年生 100名(各国33名、開催国34名)
過年度参加経験者 各国5～10名程度
- 主催/【日本】日中韓子ども童話交流事業実行委員会(子どもの未来を考える議員連盟、独立行政法人国立青少年教育振興機構)、【中国】中国関心下一代工作委员会、【韓国】ソウル教育大学
- 後援/中華人民共和国駐日本国大使館、駐日本国大韓民国大使館、文部科学省、外務省、国立国会図書館国際子ども図書館、公益財団法人文字・活字文化推進機構、公益社団法人全国学校図書館協議会
- プログラム/世界に1つだけの創作絵本作り、絵本読み聞かせ、見学、共同宿泊体験、絵本の発表会 等

【令和元年度の事業の様子】



万里の長城見学



テーマ「園」に沿った絵本を作成

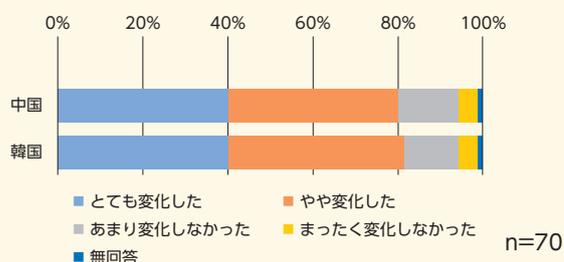
●参加者の声

- ・私は「別れは、次のもっと素晴らしい再会のためにある！」とたく信じています。10年後、私たちは参加経験者としてまた会いましょう！(中国の参加者)
- ・私は子ども童話交流に行ってから、分かったことがたくさんあります。一人ではできなかった事を友達と一緒にすると、楽しくて、簡単にやりとげることができるという事と「童話交流」は競争ではなく協同であるという事です。(韓国の参加者)
- ・中国での出会いは、ぼくの世界をぐんと広げてくれた。ぼくたちは、言葉や文化がちがうし、考え方もそれぞれだけど、ちゃんと分かり合うことができました。(日本の参加者)

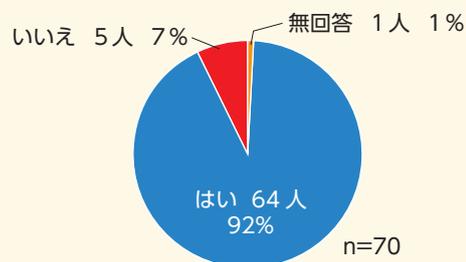
●事業参加後の変化

※平成23年～29年(26年を除く)の参加経験者(198人)のうち、12～21歳の70人が回答。

当事業参加前/後で中国・韓国に対する印象やイメージに変化はありましたか



この交流を機に国際交流に興味を持ちましたか



ミクロネシア諸島自然体験交流事業

日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成することを目的として、平成14年度より実施しています(令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止)。

- 事業期間/受入：毎年6月下旬の約10日間
派遣：毎年7月下旬～8月下旬の約11日間
- 実施場所/受入：東京都ほか ※令和元年度は長野県・島根県・広島県にて開催
派遣：マーシャル諸島共和国・ミクロネシア連邦(チューク州・ポンペイ州・コスラエ州のうち2州)・パラオ共和国
- 参加者/受入：10歳～14歳 マーシャル諸島共和国：24名、ミクロネシア連邦：48名、パラオ共和国：12名(累計：1,183名)
派遣：小学校5年生～中学校2年生 64名(累計：1,867名)
- 主催/独立行政法人国立青少年教育振興機構
- 後援/外務省・文部科学省・マーシャル諸島共和国・ミクロネシア連邦・パラオ共和国
- プログラム/受入：スポーツ交流、上野動物園見学、都内中学校訪問、国会議事堂見学、各国大使館訪問、地方施設での交流プログラム等
派遣：自然体験、無人島体験、スポーツ交流、マリアクティビティ、ホームステイ、合同学習成果発表会等

【受入の様子】



国会議事堂見学

【派遣の様子】



無人島体験

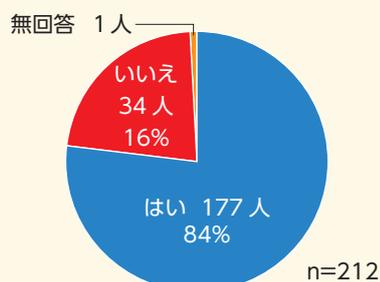
●参加者の声

- ・現地の人たちとともに行動をすることにより、いつもの自分だったらできないようなことに取り組むことができました。また、人種などというものはなく、人間としてかわりあい、改めて人の温かさというのが分かりました。
- ・私はこの事業に参加して、「ミクロネシア諸島の良さ」を知りました。現地の方々は優しくフレンドリーな方が多かったです、自然に恵まれていてとても良いなと思いました。
- ・日本と環境が違うので驚くことが多かったけど、水や食料の大切さを感じることができました。

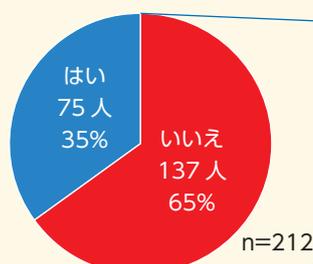
●事業参加後の変化

※平成23年～29年の参加経験者(380人)のうち、13～23歳の212人が回答。

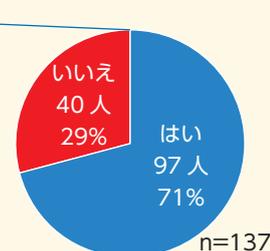
外国語の学習に力を入れるようになったか



海外留学をしたことがあるか
または、する予定があるか



今後留学してみたいと思うか



「体験の風をおこそう」運動[®]とは

近年、社会が豊かで便利になる中で、子供たちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少してきている状況を踏まえ、子供たちの健やかな成長にとって体験がいかに重要であるかを広く発信し、社会全体で体験活動を推進していくことを目的とした運動です。

「体験の風をおこそう推進月間」事業に参加しませんか。

体験の風をおこそう推進月間事業

体験の風をおこそう運動推進委員会（事務局：国立青少年教育振興機構）では、毎年10月を「体験の風をおこそう推進月間」と定め、事業統一日（令和3年度は10月23日（土））を中心に、全国各地で子供たちやその家族と一緒に体験できる機会と場の拡充及びその社会的気運の醸成に努めています。

そこで、全国の青少年団体等に呼びかけ、10月に「体験の風をおこそう」運動に賛同して実施していただける事業を募集しています。登録は、「体験の風」HP（<https://taikennokaze.jp/download>）より、要項をご確認の上、HP内の専用webフォームからご登録いただくか、登録申込書に必要事項をご記入した後、月間登録先メール（taikennokaze-suishin@niye.go.jp）またはFAX（03-6407-7699）にてご提出ください。令和2年度は276団体に参加いただき、1,348事業の登録がありました。是非、ご登録ください。

子ども体験遊びリンピック

体験の風をおこそう推進月間事業のうち、特に競技性のある体験活動を幼児、小学生、中学生、親子等を対象に実施する事業を「子ども体験遊びリンピック」として併せて実施しています。

※子ども体験遊びリンピックの事業を10月（推進月間）に実施する参加団体には、松本零士氏（漫画家）がデザインしたメダルと賞状をお送りします。



ガイドブック「体験・遊びナビゲーター」



国立青少年教育振興機構では、自然の中での体験や遊びを紹介したガイドブック「体験・遊びナビゲーター」を作成しました。ホームページからダウンロードできます。

<https://www.niye.go.jp/taikenasobi/>

「チラシ・ポスター」「のぼり旗」をご活用ください。

「体験の風をおこそう」運動の趣旨にご賛同いただける団体には、「チラシ・ポスター」「のぼり旗」を無料で配布しています。是非、事業での配布・掲示等にご活用ください。また、同運動のロゴマークも事業の開催案内に掲載する等ご活用いただいています。ご希望の場合は右ページ下部の「体験の風をおこそう運動推進委員会」までご連絡ください。



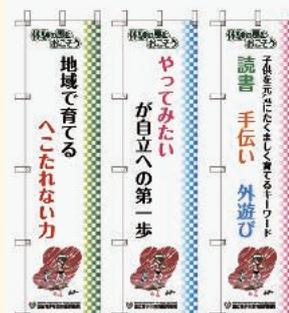
ロゴマーク



チラシ・ポスター



のぼり旗 ver.1



のぼり旗 ver.2

子供を元気にたくましく育てるキーワード

読書 手伝い 外遊び

最近、外で元気に走り回る子供の姿を見かけなくなっていると思いませんか？ 今の子供たちは、私たち大人が子供だった頃に比べ、**自然体験や友達との外遊び、地域行事への参加**といった**体験の機会が少なくなっている**といわれています。こうした体験は、子供の**成長の糧**であり、**生きる力**をはぐくむ基盤になります。

子供が健やかに、たくましく自立した大人へと成長するためには、**小さい頃から成長に合わせた体験を積み重ねていく**ことが大切です。でも、特別な体験が必要ということではありません。**「読書・手伝い・外遊び」**など**普段の生活で取り組める体験**でも、子供の**知・徳・体の成長に大きな効果**をもたらします。

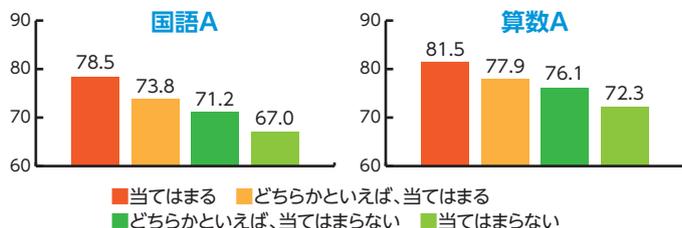
子供の将来を見据え、**今できることから始めてみませんか？**

読書

子供は、読書や読み聞かせを通じて、様々な言葉や物事に対する感性や考える力、コミュニケーション力を身につけていきます。

また、読書が好きな小学生ほど国語や算数の点数が高くなる傾向にあることから、読書は学力にも関係していることがうかがえます。

「読書は好きですか」の質問に対する小学生の回答と学力調査の関係



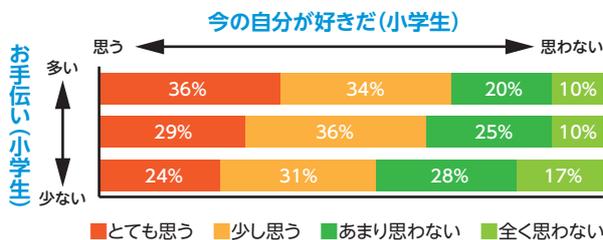
出典「平成29年度全国学力・学習状況調査」文部科学省

手伝い

子供は、家事や地域の活動を手伝うことで様々な経験をします。失敗を経て工夫すると、徐々にできるようになって自信が付き、積極的に行動するようになります。

また、人から感謝されたり褒められたりすると「役にたった」「認めてもらった」といった肯定的な感情が生まれ、責任感や使命感を養い、自立につながっていくと考えられています。

小学生の日頃のお手伝いと自己肯定感の関係



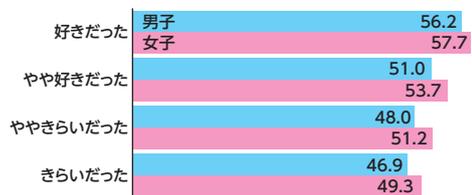
出典「子どもの生活力に関する実態調査」国立青少年教育振興機構(平成27年度)

外遊び

外遊びは集団で行うものが多く、ルールを守り、コミュニケーションをとることが必要となるため、規範意識や社会性を育む良い機会になります。

また、幼児期に体を動かす遊びが好きな子供ほど、小学校に入ってから体力が高くなる傾向にあることから、外遊びは健やかな成長に欠かせない体験だということが分かります。

「入学前は体を動かす遊びが好き」の質問に対する小学生の回答と体力合計点の関係



出典「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」スポーツ庁

体験の風をおこそう運動推進委員会 構成団体

ガールスカウト日本連盟 国立青少年教育振興機構 自然体験活動推進協議会 社会通信教育協会 修養団 全国学校栄養士協議会 全国公民館連合会 全国子ども会連合会 全国児童養護施設協議会 全国スポーツ推進委員連合 全国ラジオ体操連盟 日本一輪車協会 日本キャンプ協会 日本青年団協議会 日本スポーツ協会日本スポーツ少年団 日本PTA全国協議会 日本ユースホステル協会 日本ららばい協会 日本レクリエーション協会 ハーモニセンター ボーイスカウト日本連盟 [21団体]

「体験の風をおこそう」運動に関する問い合わせ先

体験の風をおこそう運動推進委員会
(事務局：国立青少年教育振興機構)

TEL 03-6407-7621 E-mail taikennokaze@niye.go.jp



<https://taikennokaze.jp/>



イメージイラスト：松本壽士

申請・採択状況

(3月31日現在)

令和3年度 活動区分別申請・採択状況 (一次募集分のみ)

活動分野	申請件数	採択件数	交付決定額 (単位：千円)
子どもの体験活動	3,615	2,930	1,153,040
子どもの読書活動	384	325	130,619
教材開発・普及活動	31	13	64,350
合計	4,030	3,268	1,348,009

令和2年度 活動区分別申請・採択状況 (一次募集分のみ)

活動分野	申請件数	採択件数	交付決定額 (単位：千円)
子どもの体験活動	3,981	3,376	1,349,600
子どもの読書活動	476	407	157,327
教材開発・普及活動	28	10	66,876
合計	4,485	3,793	1,573,803

令和3年度 都道府県別申請・採択状況 (一次募集分のみ)

(単位：件)

都道府県	活動区分	申請	採択
北海道	体験活動	187	155
	読書活動	18	17
青森県	体験活動	36	30
	読書活動	6	5
岩手県	体験活動	30	27
	読書活動	1	1
宮城県	体験活動	27	23
	読書活動	4	4
秋田県	体験活動	19	18
	読書活動	4	4
山形県	体験活動	42	38
	読書活動	0	0
福島県	体験活動	32	29
	読書活動	6	6
茨城県	体験活動	44	40
	読書活動	1	1
栃木県	体験活動	46	40
	読書活動	10	10
群馬県	体験活動	41	36
	読書活動	0	0
埼玉県	体験活動	147	133
	読書活動	15	12
千葉県	体験活動	201	156
	読書活動	6	4
東京都	体験活動	553	417
	読書活動	78	70
神奈川県	体験活動	186	138
	読書活動	17	11
新潟県	体験活動	56	48
	読書活動	7	5
富山県	体験活動	34	28
	読書活動	0	0

都道府県	活動区分	申請	採択
石川県	体験活動	35	31
	読書活動	0	0
福井県	体験活動	14	14
	読書活動	2	2
山梨県	体験活動	49	39
	読書活動	10	7
長野県	体験活動	64	49
	読書活動	1	1
岐阜県	体験活動	52	49
	読書活動	1	1
静岡県	体験活動	61	50
	読書活動	4	3
愛知県	体験活動	107	89
	読書活動	10	8
三重県	体験活動	26	21
	読書活動	0	0
滋賀県	体験活動	54	46
	読書活動	5	5
京都府	体験活動	99	80
	読書活動	10	7
大阪府	体験活動	282	233
	読書活動	38	31
兵庫県	体験活動	139	113
	読書活動	14	14
奈良県	体験活動	64	59
	読書活動	6	5
和歌山県	体験活動	24	22
	読書活動	5	4
鳥取県	体験活動	15	12
	読書活動	7	6
島根県	体験活動	14	11
	読書活動	3	3

都道府県	活動区分	申請	採択
岡山県	体験活動	59	50
	読書活動	3	3
広島県	体験活動	21	19
	読書活動	2	1
山口県	体験活動	27	24
	読書活動	6	6
徳島県	体験活動	53	43
	読書活動	3	3
香川県	体験活動	34	26
	読書活動	5	5
愛媛県	体験活動	72	60
	読書活動	4	3
高知県	体験活動	21	18
	読書活動	7	6
福岡県	体験活動	148	117
	読書活動	18	17
佐賀県	体験活動	15	12
	読書活動	23	13
長崎県	体験活動	35	29
	読書活動	0	0
熊本県	体験活動	37	30
	読書活動	12	12
大分県	体験活動	28	21
	読書活動	1	0
宮崎県	体験活動	57	49
	読書活動	1	1
鹿児島県	体験活動	207	138
	読書活動	10	8
沖縄県	体験活動	21	20
	読書活動	0	0
合計	体験活動	3,615	2,930
	読書活動	384	325

子どもゆめ基金へのご協力を

子どもゆめ基金は、国と民間が協力して青少年教育に関する団体が行う、子どもの体験活動や読書活動などの振興を図り、子どもの健全育成に寄与するものです。

このため、個人、企業からもご協力をいただき、基金の拡大を図り、幅広くその活動を支援することにしています。下記の募金口座にて募金を受付しております。広く皆様のご理解とご支援を何卒お願い申し上げます。

なお、子どもゆめ基金に対するご寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

振替口座

□座番号	00150-5-371382
□座名義	子どもゆめ基金

※振込に便利な振込払込書を中心に綴じておりますので、ご利用ください。

銀行口座

銀行名	三菱UFJ銀行 渋谷支店
□座番号	普通預金 3025103
□座名義	子どもゆめ基金

子どもゆめ基金への支援

検索

「子どもゆめ基金」へご寄附いただいた皆様

令和2年度に「子どもゆめ基金」へご寄附いただいた主な方々です。

(あいうえお順・敬称略)

荒井 伽羅	株式会社伊藤園
特定非営利活動法人 思いをつなぐ会	コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
サントリービバレッジサービス株式会社	シンソー印刷株式会社
株式会社八洋	一般社団法人ほっぷ 代表理事 加藤江依子
特定非営利活動法人 ホワイトベル	益戸 努
村井 悠治	ライフカード株式会社

子どもゆめ基金ガイド2021

2021年8月発行

編集 独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部

発行 独立行政法人国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

電話 0120-579081 (フリーダイヤル)

URL <https://yumekikin.niye.go.jp/>

E-mail yume@niye.go.jp

全国の国立青少年教育施設のご案内

国立青少年交流の家

- 1 国立大雪青少年交流の家 (北海道美瑛町)
- 2 国立岩手山青少年交流の家 (岩手県滝沢市)
- 3 国立磐梯青少年交流の家 (福島県猪苗代町)
- 4 国立赤城青少年交流の家 (群馬県前橋市)
- 5 国立能登青少年交流の家 (石川県羽咋市)
- 6 国立乗鞍青少年交流の家 (岐阜県高山市)
- 7 国立中央青少年交流の家 (静岡県御殿場市)
- 8 国立淡路青少年交流の家 (兵庫県南あわじ市)
- 9 国立三瓶青少年交流の家 (島根県大田市)
- 10 国立江田島青少年交流の家 (広島県江田島市)
- 11 国立大洲青少年交流の家 (愛媛県大洲市)
- 12 国立阿蘇青少年交流の家 (熊本県阿蘇市)
- 13 国立沖縄青少年交流の家 (沖縄県渡嘉敷村)

宿泊体験学習に!

スポーツ合宿に!

研修に!

講演会に!

ミーティングに!

青少年の体験活動をサポートする
国立青少年教育施設が全国に28か所

国立青少年自然の家

- 1 国立日高青少年自然の家 (北海道日高町)
- 2 国立花山青少年自然の家 (宮城県栗原市)
- 3 国立那須甲子青少年自然の家 (福島県西郷村)
- 4 国立信州高遠青少年自然の家 (長野県伊那市)
- 5 国立妙高青少年自然の家 (新潟県妙高市)
- 6 国立立山青少年自然の家 (富山県立山町)
- 7 国立若狭湾青少年自然の家 (福井県小浜市)
- 8 国立曾爾青少年自然の家 (奈良県曾爾村)
- 9 国立吉備青少年自然の家 (岡山県吉備中央町)
- 10 国立山口徳地青少年自然の家 (山口県山口市)
- 11 国立室戸青少年自然の家 (高知県室戸市)
- 12 国立夜須高原青少年自然の家 (福岡県筑前町)
- 13 国立諫早青少年自然の家 (長崎県諫早市)
- 14 国立大隅青少年自然の家 (鹿児島県鹿屋市)



国立オリンピック記念
青少年総合センター
(東京都渋谷区)

子どもゆめ基金についてのお問い合わせ

TEL : 0120-579081

E-mail : yume@niye.go.jp URL : <https://yumekikin.niye.go.jp/>



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構